

川島グループ

4-9月 売上高 263億円

非鉄、コロナ拡大で苦戦

非鉄総合商社、川嶋（本社＝浜松市、川嶋義勝代表）を中心とする川島グループはこのほど、2021年3月期上期（4-9月）の主要37社の連結決算が売上高で約263億円、経常利益で約19億円となったことを明らかにした。主力の非鉄事業は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたが、非金属事業は堅調な動きが続いた。シニアカート事業では需要拡大を受け、21年6月完成予定で新工場の建設を進めている。

シニアカートで新工場

同グループの決算はグループ各社の決算時期が異なるため概算で数字になる。新型コロナウイルス感染拡大の影響が最も大きかった4-6月期を中心に非鉄事業で売上高が減少。7月以降は回復傾向を示したが上期通期では前年同期の約32.8億円から減収となった。

た。一方、シニアカートや産業廃棄物、レジャーなどの非金属事業が堅調推移。収益の下げ幅を抑えた格好となった。

シニアカート事業を行うセリオ（本社＝浜松市）は、販売台数が増加してきていることから生産能力の増強を目標し、新工場の建設を進めている。浜松市



建設中のセリオ本社工場

内に約1万平方メートルを確保し、工場と本社事務所の建設を進めている。これにより5年先には現状比倍増以上の生産を目指す方針だ。

同グループはアルミ精錬や貴金属スクラッ

プのリサイクル・リユースなど非鉄金属分野で幅広く事業を展開する総合非鉄リサイクル企業グループ。近年では不動産、レジャー、介護など金属以外にも幅広い分野で事業を展開している。



川嶋代表